

成田空港の拡張事業と 暮らしや産業の拠点として選ばれるエアポートシティ

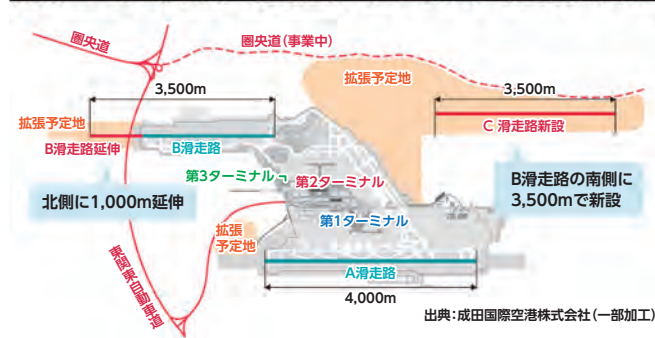
成田空港の拡張事業

成田空港は、国際線基幹空港として海外の100以上の都市と結ばれており、日本の空の表玄関としての役割を果たしています。

今後、増加が予測される首都圏の航空需要に対応し、成田空港がその役割を果たしていくためには、周辺地域との共生・共栄を図りつつ、成田空港の一層の機能強化を図ることが必要です。

このため、平成30年3月、国土交通省（航空局）・千葉県・空港周辺9市町・成田国際空港株式会社（以下「空港会社」）の四者は、環境対策等の実施を前に、滑走路

令和11年3月に向けて進行中の成田空港の拡張事業



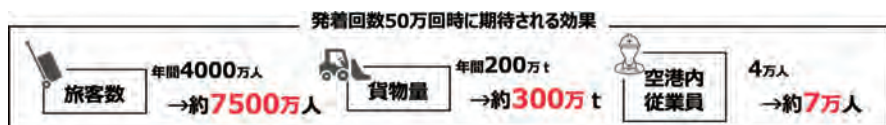
空港を核とした産業拠点の形成

の増設・延伸等を含む拡張事業の実施に合意しました。現在、令和11年3月の供用を目指し、滑走路整備等の取組が進められています。

この新滑走路等の供用が開始されると、年間発着枠が現在の30万回から50万回まで拡大し、旅客数・貨物取扱量・空港内従業員数が大幅に増加することが期待されます。

こうした日本最大の貿易港である成田空港の拡張事業の効果を生かして、我が国の産業競争力の強化と本県経済の活性化を図っていくためには、空港周辺に立地することにビジネス上のメリットがある産業を呼び込んでいくことが重要です。

このため、県では、空港周辺9市町とともに、地域未来投資促進法に基づく「成田新産業特別促進区域基本計画」を策定し、民間投



選ばれるエアポートシティの実現

また、産業拠点形成のための取組だけでなく、その受け皿づくりのための取組も重要です。

国・県・空港周辺9市町・空港会社は、空港周辺の地域づくりに関する「実施プラン」において、「地域と空港を支える人材の確保」と「空港を生かした産業の発展」を起点とする地域づくりを基本的な考え方に、「空港を核として、都市と田園が調和し、暮らしや産業の拠点として選ばれるエアポートシティ

「ティ」を地域の将来像として掲げています。

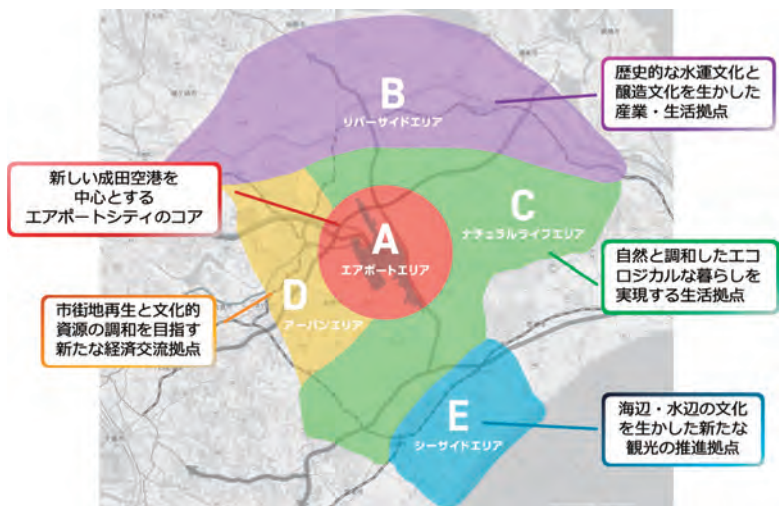


株式会社社長(当時)
センター長
所入り口にて)

今年4月、地域づくりを担う県と空港づくりを担う空港会社は、「実施プラン」で掲げたエアポートシテイ実現のため、「NRT（なりた）エリアデザインセンター」を設立するとともに、今年6月には、同センターにおいて、「成田空港「エアポートシテイ」構想」を策定しました。



写真左:田村 明比古 成田国際空港株式会社社長(当時)
中央:石田 東生 NRTエリアデザインセンター長
(NRTエリアデザインセンター事務所入り口にて)



エアポートシティ構想において整理されたゾーニング

議論の出発点となるものであり、この中において、成田空港を中心とする都市圏において、将来にわたって目指すべき姿として、誰もが輝き世界と響き合う「フラッグシップ・エアポートシティ」^①というビジョンを掲げています。

今後、この構想を呼び水に、民間企業や周辺市町をはじめとする様々なステークホルダーとの議論を活性化させ、国際的な産業拠点と、それを支える多様な人々が集い互いに高め合うコミュニティの形成を目指してまいります。

進む道路ネットワークの整備

そして、空港の拡張事業により高まるポテンシャルを受け止め、広域に波及させるとともに地域が発展していくためには、道路ネットワークの充実・強化が重要です。

このため、令和8年度開通予定の圏央道（大栄～横芝）の着実な整備や、首都圏と空港を直達する北千葉道路の整備、湾岸地域の渋滞を解消する新湾岸道路の計画の具体化を促進します。

整備が進む広域道路ネットワーク



整備が進む広域道路ネットワーク

おわりに

成田空港の拡張事業の効果を、空港のみならず周辺地域に波及させ、暮らしや産業の拠点として選ばれるエアポートシティを実現するため、県では、周辺市町や空港会社のみならず、民間企業や地域住民をはじめとする方々と連携して、これらの取組を推進してまいります。

資を促進していくこととしています。

既に、地域未来投資促進法を弾力的に活用することで、2件の大型国際航空物流施設の開発表明につながったところであり、昨年は、「物流」に加え、成田空港の特徴や強みを生かせる5つの産業を新たに「集積を目指す産業」に追加しました。

現在、特に空港との親和性が高い「航空宇宙関連産業」について、空港内の整備地区を核とした航空機エンジンのメンテナンスなど、航空機整備産業の集積を旨指して、具体的な取組を進めているところだ。

